



### 3. ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 名古屋 第1回日本医学サイエンスコミュニケーション学会学術集会報告

中山健夫

同大会長、京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野

日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構の第6の分科会として発足した日本医学サイエンスコミュニケーション学会は大きく次の3つの課題を掲げています。

1. 医学者が、医学を市民に伝え、市民の医学リテラシーを高める手助けをすること
2. 市民が、市民の医学への思いを医学者に伝え、医学者の社会リテラシーを高めること
3. 医学者と市民が、医学と社会の望ましい関係について、ともに考えていくこと

令和4年10月2日(日)に本学会の第1回シンポジウム「医学サイエンスコミュニケーションの今まで・これから」(座長:孫大輔[鳥取大]、中山健夫[京都大])が開催されました。演者の方々(敬称略)は次の通りです。

- ・ 北澤京子 (京都薬科大) 「医学サイエンスコミュニケーション:2つの視点」
- ・ 加藤和人 (大阪大) 「医学サイエンスのコミュニケーション:倫理・政策・患者参画」
- ・ 秋山美紀 (慶應義塾大) 「医学系の研究教育機関の情報発信とメディア報道」
- ・ 市川衛 (広島大) 「医学研究をわかりやすく伝える研究」から見えてきた、医療科学コミュニケーションのポイント」
- ・ 木内貴弘 (東京大) 指定発言

多様な視点から医学のサイエンスを基点とするコミュニケーションを巡る話題、その可能性と展望についてお話をいただき、演者の間、そしてフロアの参加者も交えて、熱心なディスカッションが行われました。

ヘルスコミュニケーションと医学サイエンスコミュニケーションの共通点は、医療者と患者・市民のコミュニケーションであること、相違点は、ヘルスコミュニケーションが良い予防、治療行動への変容を主題とするのに対して、医学サイエンスコミュニケーションは医学研究の成果(意義、面白さ)を伝え、医学研究の社会的認知を高めしていくことです。

大いに盛会であった第1回学術集会シンポジウムを踏まえて、運営委員会では第2回シンポジウムの企画を検討しています。次回もヘルスコミュニケーション学関連学会機構の他の分科会との相乗効果も期待して、多くの方々にご参加いただけることを楽しみにしております。